

EDELWEISS

辰年に肖る

元日に能登半島を襲った地震、2日には救援物資を届けるはずだった自衛隊機の事故、そして今も続く困難な救助や避難生活。辛い年明けとなってしまいましたが、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

JCZでも総会・新年会のお知らせと共に募金開始のお知らせを同封致し、今号入稿前の現在、3000フランを越すお金が集まっています。1月末の締め切り後、被災地の石川県に送ります。ご協力頂きました皆様、有難うございました。

石川県在住の知り合いには募金の他に「そのうち報道されなくなっても、被災地を忘れないで」と託されました。「阪神・淡路大震災被災時を思い出す」という声も沢山聞かれました。

なぜ元日から地震・・・と気の毒に思いますが、辰=振で「万物が振動する」、地震が多い年だという説もあるようです。そして価値観が変わったり、政変も起きやすいとのこと。

しかし何よりも、辰年は力強いシンボルとして幸運を呼ぶとされているとのこと。日本人学校で開催された書き初め大会では、下の写真でご覧頂けるように、勢いのある「辰」の字が心に沁みました。そんな辰に肖って、この困難な時期を皆さんで乗り越えていきましょう。

こういう時こそ必要なのは団結力。今年も1月28日にJCZの総会がつつがなく執り行われ、藤山大使ご夫妻他、多くの皆様が最後の三本締めまで長い時間を一緒に過ごせました。グラスホッパー・クラブ・チューリッヒで活躍中の瀬古歩夢選手も顔を出してくれました。そして熱い演奏と景品に胸を躍らせ、義援金・募金も沢山顶きました。

皆様今年も1年、どうぞよろしくお願致します。(SN)



JCZ Neujahrsparty



- 巻頭文 『日本訪問記と新年に思う』 青砥 玄 (会長)
- 私のイチオシ、シェアします! Vol.40 『私のふるさと、パドヴァ』 高木 恵
- Hoi Zäme ホイツアメ Vol.14 『Wo ist (isch) Wo?』 長坂 道子
- 美のプリズム Vol.22 『ビュールレ・コレクション展示室』 柿沼 万里江
- KETTE (会員の輪) Vol.174 宮内 良太 さん (ミュンヘン在住)

2023年の秋、スイスアルプスにある村出身の家の内親族から強い要望を受け、7名による3週間の日本旅行を敢行しました。親族は生まれて初めての日本訪問で、事前準備は家内がネットを利用して入念に行いました。山をこよなく愛する家内とその親族とは、2年ごとに世界中様々な所で3週間のトレッキングツアーを共にしてきました。過去、チュニジア、カーボベルデ島、バリ島、ヒマラヤ（北インド）、アンデス（ペルー・ボリビア）などを巡りました。今回はトレッキングよりも異文化の日本をゼロから体験したいということで、家内と二人で行き先を厳選しました。

まずは、私の郷里が見たいということで、島根県松江から始めて、出雲、姫路、京都、高野山、奈良、金沢、白川郷、箱根、東京という、まさに日本のゴールデンルートと呼べるような旅程となりました。その間に2週間のJRパスを利用。その判断も家内がエクセルで公共交通機関の料金を割り出し、JRパス利用と利用しない場合の比較表を作成し、もっとも費用対効果の高いものを割り出した結果です。文明の利器・ネットで全てを検索できるから可能なことです。

今回の旅では、各地でボランティアガイドを利用しました。実は日本各地に、ボランティアガイドの団体が存在し（JNTOのホームページから検索可能）其処に登録されているガイドさんたちは、英語が堪能な元企業の駐在員という70代前後の方々です。そういった方と丸1日行動を共にする中で、個人的にも親しくなりますし、とても良いシステムです。我々が支払うのは彼らの交通費と、昼食代だけなのです。おかげで私の仕事がかかり楽になりました。

スイス人として初めて訪れた日本の感想は、「日本食はなぜこんなにも美味しいのか?」「なのになぜこんなにも安いのか?」から始まり、「なぜ日本人はこんなにも親切なのか?」「大都会で列車が多いのに時刻表通りに運航され、お客は整然と列に並んで静かに待っている。誰も割り込まず譲り合いの精神があるのはなぜか?」などでした。「どこへ行ってもきれいなトイレがあり、



日本訪問記と新年に思う

巻頭文：青砥 玄（会長）

無料で利用できるのは素晴らしい」「ウォシュレットはすごい!」と日本では当たり前な事が外国人には驚きと映るようです。

結果的に旅行後、参加者全員が日本ファンになりました。天候にも恵まれ、3週間の旅の途中に傘を利用したのは、京都の嵐山訪問の2時間だけでした。

宿泊は基本、Air BnBで予約をした民宿です。夕食は民宿の居間で、最寄りのスーパーで購入した食材やお酒で連日夕食会を開催しました。それは普通の日本人の生活を体験したいという皆の希望があったからと、レストランでは団体だと、一緒に座るのが難しいからでもあります。

京都の民宿は、京都駅から歩いて5分の一戸建てでしたが、案内してくれたのは、日本語が片言の中国人女性。次の日に京都のボランティアガイドの方とその話をしたら、「Air BnBに出ているほとんどの物件は、中国人オーナーです」と嘆いていました。日本の土地・建物が外国人に買われ続けている現状に驚くと同時に危機感を持ちました。

4日間の京都の後は、高野山の宿坊（寺社の宿泊施設）で2泊しましたが、これはとても素晴らしい体験でした。高野山全体が、まさに人々が祈りを捧げた歴史のある霊山と呼ぶに相応しい場所です。真言密教の聖地で1200年前、弘法大師・空海が最初に密教の道場を開いた地で、現代までその修業が続けられている場所でもあります。宿坊では、仏教の修行僧が食している、野菜や豆腐などの植物性食材だけで作る“精進料理”を朝夕いただき、朝の御勤めにも参加することが出来、深淵な仏教の世界に浸りながら参加者全員、厳かな体験となりました。霊的に繊細な家内は数年前に初めてここを訪れた時に、「此処は折り込まれた場だ!」と感銘を受け、以来とりことなり、今回は2回目の訪問です。欧米の方々にもお勧めの場所です。また奥の院参道には、20万基の苔むした巨大なお墓がところ狭しと並んでいます。中には、武田信玄、上杉謙信、織田信長、豊臣秀吉、伊達政宗といった戦国武将の墓も多数あります。ここには高野山、ひいては空海のそばで眠りたいとの先人たちの願いがこめられているそうです。

其処を夜中に歩くツアーが好評で、ガイドの案内で巡りました。夜のお墓巡りも、静寂さと冷気の中で心休まる、とてもお勧めの体験です。高野山ではボランティアガイドがいないので正規料金をお支払いしてお願いしました。ボランティアの好意に頼るのも一つの

手ですが、デフレ下で苦勞する日本の方々にもきちんとお支払いすることはとても大切だと感じていました。国民を豊かに幸せにするのが政治の仕事なのに、それが長年にわたり実践されてこなかった祖国に対して、心が痛んでいる今日この頃です。

仁徳天皇は民のかまどの逸話の中で、民が苦しんでいるのを知り、三年間税の免除を実行されました。今の日本こそ、そういった国民の痛みに寄り添うことのできる為政者が必要だと強く感じています。

また、親族は仏教のお寺を見学している際、神道の神社が共存している様を各地で発見して疑問を持っていたので、私が本地垂迹、神仏習合という日本人の知恵について説明をしたところ、感動していました。

箱根の温泉旅館でのお風呂も大好評でした。シャワーは個人でするのが当たり前という西洋人が、大浴場で一緒に入浴するというのは、彼らにとっては全く新しい体験でしたが、湯につかりながらのおしゃべりや、温泉の湯で一緒に温まる楽しさを実感しており、早朝にも入浴していました。

ひとつだけスイスの方が苦勞していたのは、高野山と、箱根の宿での食事の時です。浴衣着で椅子ではなく畳に膝を折り曲げて座ることの苦しみに耐えられず、座布団を何枚も重ねてその上に座って食事をする様子は滑稽な風景でした。

最後に東京では、かつてスイスに駐在されていた企業や大使館の方々が私に会いたいと連絡をくださったので、夜だけ私は家族とは別行動で、4夜は居酒屋での飲み会の連続でした。

最後の夜は、1年前に家内と体験して感動した、墨田川の屋形船の夕食をまた家族の皆で体験しました。此処では椅子とテーブル席がありますので、西洋人も安心です。これは海外からの訪問客にとってもお勧めできる、日本観光の目玉になると思いました。今回の旅は、JAL利用でヘルシンキ経由、羽田行きを利用しました。やはり日航航空会社のサービスには安心します。

そんな素晴らしい体験の後、日本では、元旦に能登半島地震、2日には羽田での航空機事故と、災難続きの新年となりました。具体的な要因は様々であり、人によって捉え方は違うかと思いますが、私がこの災害で感じたのは、為政者の不甲斐なさにより日本が国として間違った方向に向かっているのではないかということです。災害は日本列島の置かれている自然環境が原因ですので、それに対する備えこそが最重要にもかかわらず、それがあまり為されていません。

新年早々の災難の連続は、日本文明の祖霊による不安の現れなのかもしれない、などと考えさせられました。被災者の方々には心からお悔やみを申し上げるとともに、自分自身を見つめなおし、ご先祖様や天に恥じない生き方が出来ているかどうかと、自身の姿勢をもう一度問い直そうと思った次第です。

ご意見・ご質問は青砥まで
gen.aoto@toyota.ch

北東イタリアと言えば皆さん世界遺産・ヴェネツィアにすぐ想いを巡らせるのではないのでしょうか。見渡す限りの美しい街並み、歴史的な風景、神秘的な路地や物語に迷い込んでしまったかと思われるような水路が目の前に広がります。人生に一度は観光してみたいと思う一方、時期によっては通勤ラッシュ中の渋谷駅を連想させてしまいそうな混雑状態や、食事と宿の高過ぎる価格には悩まされてしまいます。2024年からは試験的に、ハイシーズンは街中へ入るためのチケットの購入が義務付けられるようになります。

ヴェネツィア観光及びヴェネツィアでの宿泊が困難になるにつれて、ヴェネツィアから電車で30分以内の範囲にあるメストレやパドヴァを宿泊先に選ぶ人達が徐々に増加しつつあります。

しかしパドヴァはヴェネツィア観光の宿泊代節約手段のみの街ではありません。紀元前11世紀には既に現在のパドヴァの中心部に相当する地域で、先史時代の集落が確認されている歴史の古い街です。パドヴァの歴史家ティトウス・リヴィウスは『ローマの歴史』（Ab urbe condita）の中で、パドヴァとローマを結んだ古代の同盟を祝るため、パドヴァは紀元前1132年、トロイの滅亡を免れたトロイの王子アンテノレによって創設されたという伝説を書き記しています。

パドヴァは現在地元の人の間では、「3つの『ないもの』の街」として知られています。まず一つ目の『ないもの』は扉のない



私のふるさと パドヴァ

高木 恵



いカフェ、Caffè Pedrocchi。

パドヴァの中心、VIII Febbraio通り15番地にあるカフェ・ペドロッキは、世界的に有名な歴史あるカフェです。1916年までは、特にかつてのイタリアでは珍しかった24時間営業をしていたため、「扉のないカフェ」とも呼ばれ、1世紀以上にわたって賢者、学生、学者、政治家達が頻りに訪れる「一流の待ち合わせ場所」でした。1848年2月8日、このカフェで大学生が負傷したことがきっかけとなり、イタリア・リソルジメント蜂起が起こったことでも知られています。

二つ目の『ないもの』は草のない草原、Prato della Valle。



パドヴァのシンボルのひとつであるプラート・デッラ・ヴァッレは、大きな楕円形の広場で、パドヴァ最大の広場であると同時に

に、ヨーロッパでもモスクワの赤の広場に次ぐ大きさ（88,620平方メートル）を誇ります。この広場では、インソラ・メンミアと呼ばれる、中央の緑が特徴的な島の周囲を運河が取り囲み、過去の有名人の彫像が飾られています。もともとこの広場は貿易のために使われていたため、緑地がなく、「草のない草原」という言葉が生まれました。その後、木々や花壇で飾られた緑地ができたのです。現在プラート・デッラ・ヴァッレは、観光客並びにパドヴァ市内に在住する多くの大学生にとって、大切な場所となっています。

三つ目の『ないもの』は名のなき聖人、Sant'Antonio



パドヴァのアントニオとして知られていた、Fernando Martins de Bulhõesはフランスシスコ会に属するポルトガルの修道者・司祭で、1232年に教皇グレゴリウス9世によって聖人と宣言されました。カトリック界で最も愛されている聖人の一人である聖アントニオは、晩年をパドヴァで過ごし、他界しました。パドヴァの人々に深く愛されたので、パドヴァで聖人と言えば彼を指すほどです。ですから荘厳な聖アンソニー大聖堂も単に聖人の大聖堂と呼ばれています。

皆さん、私の出身地であるパドヴァに少しでも興味をお持ち頂けましたでしょうか。もし機会があれば是非お越し下さい。歴史深い街並みだけでなく、おらかな人々と様々な伝統料理がお待ちしております。

大使館関係のお知らせ



1. 令和6年（2024年）1月末から、各種証明（一部の証明を除く）のオンライン申請の開始予定です。それに伴い、これらの手数料をオンラインでクレジットカード支払いできるサービスも開始致します。

2. これまでは、平日の昼間に窓口に来館されて申請を行っていただく必要がございましたが、今後は、夜間、休日問わずオンラインで各種証明（一部証明を除く）の申請を行っていただけます。

3. なお、ご利用にあたっては「オンライン在留届」（ORRネット）に登録する必要があります。まだの方は以下URLからご登録願います。

【オンライン在留届】<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

4. 手数料のクレジットカードによるお支払い（オンライン決済（円建て））は、オンライン申請を行った場合可能です。窓口でのお手続きでは、今まで通り現金（現地通貨）によるお支払いのみです。

オンライン申請の詳細については、以下URLをご覧ください。
<https://www.ch.emb-japan.go.jp/files/100599668.pdf>

外務省からのお知らせ

- ガザ情勢等を受け、テロや暴力事案の脅威が増大しています。「アル・カーイダ」や「イラク・レバントのイスラム国」は、イスラエル、欧米、中東諸国の関連権益等を標的にするよう繰り返し呼びかけています。
- ISILは、1月4日に公開した幹部演説において、軍よりも、民間の標的やシナゴグ・教会等の宗教的な標的を目標とするよう呼びかけています。
- また、ISILは、1月3日にイラン南部で発生した攻撃について犯行声明を出した上で、今後、各地でテロを増加させることを示唆しています。

スイスドイツ語のクラスに参加して本当に良かった、とつくづく思う。そうしていなければ今もなお、スイス名物の冬の霧はさらに濃厚に我が視界を狭め、さらに深く気持ちを沈ませていたことは必至だからだ。

單元ごとに習う新出単語や文法の決まりには毎度うならされたが、とりわけ印象深かった（というか衝撃的だった）ことの一つがスイスドイツ語におけるWOの活躍ぶりだ。

ドイツ語を習った経験のある人なら誰もが通過する「関係代名詞」。冠詞や人称代名詞同様、ここでもまた性別は三つ、格変化は四つ、という仕組みになっていて文法嫌いの学習者を打ちのめすわけだけれど、これがスイスドイツ語となるとなんとWO一つですべてカバーされる。そう習った時の驚き、そして「でも、なぜ？」という疑問。そもそも「どこ？」という場所を表す疑問詞として認識していたWOである。なんだこれは、場所も物も人間も一緒くたなのか？ 困惑した。それまでも薄々感じてきてはいたが、このスイスドイツ語、一体どこまで「どんぶり」な言語なのか？

Der Mann, der mir die Brille verkauft hat. がスイスドイツ語になるとDe Ma, wo mir d Brülle verkauft hät. となる。Der Mannの代わりにDie Frauだろうが、Die Verkäuferinnenだろうが、つなぎ目はWO一択。便利なものだ、と感心していたらこんなのに遭遇。

De Martin isch en Ma, wo-n-i sit zwänzg jahr känne. (=Martin ist ein Mann, den ich seit zwanzig Jahren kenne.)

woとiの間に小さなnが入るのは、スイスドイツ語が母音の連なりを嫌う傾向があるからだろう。さらにはこんな例文も。

De Berg, wo mir druf obe gsi sind. (= Der Berg, auf dem wir gewesen sind.)

こうなると語順やら格やら、私のドイツ語ではもはや太刀打ちできないカオスである。というわけで、この辺りで匙を投げ、

ホイツァメ
Hoi zäme
言葉に寄り添う居場所探し



「まあいいか、だいたいわかれば」というマインドセットを強いられるわけだけれど、母語も含め、言語の仕組みをきっちり理解したい気性の私にはそれがなかなか辛かったりするのである。

そういえば、ドイツ語では過去形の「~した時」には、「wenn じゃないですよ、alsを使うんですよ」としつつこくわったものだけれど、そのalsもまた、スイスドイツ語ではwoだ。

Wo-n-i chlii gsi bi... (= als ich klein war ...) つまり、場所も物も人間も、というだけでは飽き足らず、なんと時間をも一緒くたにしてすべてをWO一つで済ませてしまうスイスドイツ語。すごくないですか？

……というところで思い出したことが一つ。フランス語圏スイスからドイツ語圏スイスに越してきてまもない頃、当地在住期間もそこそこに長い日本の友人が十人ほどの仲間を集め、「道子さん、歓迎の会」を催してくれた。丘の上にある見晴らしのいいその店では、普通のレストランのコーナーの他に、もう少しカジュアルなコーナーもあり、「そちらはね、ヴォックメニューなのよ」とその友人が言う。「ヴォックとははて？」と首をかしげる私に彼女が「ほら、こんな感じ」とメニューの一角を指差す。なにやら炒め物的な料理の名が並んでいる。

ああ、ヴォックのこと！ と理解するのに数秒。ロンドンやパリに遅れること数年、ようやくスイスでも中華鍋という調理道具が一部のグルメ派の間で知られ始めた頃ではあった。

心の中で尻餅をついたあの日以来、WOという文字の連なりに少し敏感になったつもりでいたが、その時点ではまだ一言もスイスドイツ語を解さず、このアルファベット二文字のおそるべき深淵が先に待ち構えていようとは、思いも寄らないのだった。

※ ホイツァメ / Hoi zäme / Hallo, Zusammenは、「みなさん、こんにちは」という意味のスイスドイツ語

BULLETIN BOARD

●チューリッヒ歌劇場所属、3人のテノールによるコンサート

出演：竹下数雄、Christofer Hux、
Karl Hieger、Rafael Gordillo(ピアノ)
日時：2024年3月3日(日) 13:00~
会場：Zunfthaus zur Waag, Münsterhof 8, 8001 Zürich
入場無料、Kollekte

《竹下数雄》

2024年から値上げされた公共料金

郵便

定型封書 = A-Post 1.20Fr.、B-Post 1Fr.
2kgまでの小型小包 = Priority 10.50Fr. Economy 8.50Fr.

トラム

Kurzstrecke 2.40Fr. Einzelbillett 3.20Fr. 24h-Ticket 6.40Fr.

消費税

標準8.1%、食料品・医薬品・書籍・新聞等2.6%、宿泊3.8%



Global Success Coaching

グローバルサクセスコーチングは、コーチング、各種マネジメント手法、科学的な人材アセスメントツール等を用いて、リーダーシップ育成、チーム・組織開発、人材マネジメント、その他人材開発をグローバルに支援致します。目標達成、問題解決のご相談をされたい方は、下記までお気軽にお問い合わせ下さい。

担当：津波 平和 (つは へいわ)

info@globalsuccesscoaching.eu

http://www.globalsuccesscoaching.asia/

GlobAS Relocations Europe GmbH

スイスからのお引越はグローバルリロケーション ミュンヘン支店にお任せを！ 創業20年以上、8名の経験豊富な日本人スタッフによるお引越サービス。ビデオ下見からの見積り作成(無料)が可能となりますのでまずはお気軽にご連絡ください！



HP: <http://www.globas-relo.com>

Email: zurich@globas-relo.com

Tel: +49 (0) 89-1 89-386-21 (日本語直通) 担当：三嶋

JCZ 主催 書き初め・餅つき大会@日本人学校レポート

今年も1月7日に書き初め・餅つき大会がチューリッヒ日本人学校で開催されました。コロナ禍で2回中止になりましたが、3年ぶりの去年を上回る80名が参加してくれました。

今の時代、日本にいてもなかなか餅つき現場を見ることができない状況ですが、日本人学校では体験餅つきもさせてもらえます。そしてつきたてのお餅は、柔らかくて本当に美味しいです。お汁粉に辛味餅、磯部餅にきな粉もち、納豆も甘辛醤油も、沢庵まで出るんですよ～。幸せな日本のお正月を実感できる貴重な機会です。

書き初めで「気」を清めた後のお餅はもっと美味しいはず……。来年は久しぶりに筆を持ってみようかなあ。優しくそうな書道の先生が克服できるかも。

日本人学校の先生方8名、他のボランティア7名、そして後片付けなどお手伝い下さった皆さん、本当に有難うございました。辰の字に気合いをもらい、今年も良い年にしたいですね！ (SN)



チューリッヒ日本人会・チューリッヒ日本商工会共催

ゼクセロイテン祭り「キンダーパレード」参加の御案内

春を呼ぶチューリッヒ最大の祭り、「ゼクセロイテン・キンダーパレード」が開催されます。例年、日本人学校の児童生徒とチューリッヒ在住の日本人子女にも多数参加していただき盛大に行っております。

つきましては、このパレードに参加希望のお子様は、下記の申込必要事項を御記入の上、電子メールにてお申込みをよろしくお願い致します。

- 開催日時：2024年4月14日(日)
 集合 14:00
 パレード開始 14:30
 解散予定 16:30~17:00
- 参加年齢：小学1年生以上(ゼクセロイテン当日時点で)
 ※保護者が同伴すること。
- 申込先：チューリッヒ日本人学校
 ゼクセロイテン・キンダーパレード担当(堀)
 Email: jszurich@bluewin.ch

【申込み記入事項】

- | | |
|------------------------------------|----------------|
| ①参加児童生徒名【ローマ字つづり】 | ②性別 |
| ③年齢(ゼクセロイテン当日時点) | ④法被レンタル希望(有・無) |
| ⑤保護者名【ローマ字つづり】 | ⑥住所 |
| ⑦携帯電話番号(当日の緊急連絡用) | ⑧メールアドレス |
| ⑨チューリッヒ日本人学校ホームページでの写真や動画の掲載(可、不可) | |

- 締め切り：3月11日(月)

X(旧Twitter)日本人会公式アカウント

チューリッヒ日本人会のアカウント名：@JapanClubZurich

みなさん、チューリッヒ日本人会のX(旧Twitter)アカウントはもうチェックしていただけたでしょうか？今回は会報誌の紙面をお借りして、Xでどのような情報が集められるか、主な用語と共にご紹介いたします。

ポスト/ツイート>140文字以下の文章や写真を投稿すること。日本人会のアカウントは、会で行ったイベントの様子などをポストして

います。

フォロー>特定の人(ユーザー)をフォローすることで、その人のポストをホーム画面(タイムライン)で見ることができるようになります。日本人会のアカウントは、スイス在住の個人の方々やスイス公共放送協会Swissinfo、スイス政府観光局の公式アカウントなどをフォローして、情報を集めています。

フォロー>自分をフォローしてくれている人のことです。現在、日本人会のアカウントのフォロワー数は87名で、日本人会の投稿したポストを読んでいただいています。

リポスト/リツイート>他のユーザーが投稿したポストを自分が再投稿し拡散すること。日本人会のアカウントは、他のユーザーの方々も投稿したスイスでの耳寄り情報、観光情報などをリポストして、フォロワーの方々にシェアしています。

実際にXで収集できる情報は様々です。チューリッヒ市内の中華スーパーでゴボウを見つけた方の投稿や、COOPで売っているあるお豆腐が日本の絹ごし豆腐と遜色ないものだったと発見した方の投稿。お得なドイツ語教室の情報や、ハイキングコースのお勧めをシェアして下さる方もいます。そういった情報のハブになって、日本人会の活動内容も広く皆さんにお届けできたらと、公式アカウントを運営しています。どうぞみなさんも、Xで日本人会をフォローしてくださいね！



日本航空からのお知らせ

JAL国際線 70th Wi-Fi無料キャンペーン

対象期間 / 2024年2月1日(木)~2月29日(木)(ご搭乗日)
 対象便 / JAL国際線運航便 全路線
 ※他社運航のコードシェア便は対象外です。



日本発便 有料機内食グレードアップサービス

日本発国際線プレミアムエコノミー・エコノミークラスで、1食目につき3,000円(または30USD相当額)にて有料機内食メニュー(和食・洋食)へのグレードアップをご選択いただけます。

2024年3月26日~
 特典航空券を含む JAL国際線・国内線のご予約が360日前から可能に!

航空券のご予約はこちらから

詳細・ご予約は www.jal.co.jp/ch/ JALヨーロッパ予約センター 0844-888-777(スイス国内・日本語専用ライン)



ビュールレ・コレクション展示室

チューリヒ美術館内のビュールレ・コレクション展示室が、歴史的猛省をひっさげ、2023年11月に再オープンしたことを、みなさんにご存知だろうか。2021年の『美のプリズム』夏号で、開館したばかりの新館の目玉、エミール・ゲオルク・ビュールレ (1890-1956) の罪深いコレクションの形成について記事を寄せた。その末尾にわたしは「芸術と政治は切り離せない。チューリヒ美術館の新館は、その覚悟をもって扉を開く。」と認めたが、新館が開館した直後から、大方の予想通り「汚染された美術館」として新聞、雑誌、オンライン上でチューリヒ美術館は炎上しまくった。

第二次世界大戦、そしてそれに続く冷戦時代、ビュールレは全世界に向けて武器を販売した。ポロ儲けしたその汚い金で購入されたセザンヌ、ゴッホ、ルノワール、ピカソなどおよそ200点の珠玉の名品が長期寄託として公的機関に収められたのだから、炎上しないわけがない。そして、昨今の作品来歴の調査研究 (Provenienzforschung) の進展に伴い、「略奪アート」の定義が拡大されたにもかかわらず、ビュールレ・コレクションがその研究成果を一切反映させず、なんの憚りもなくまるで美術史の教科書のごとく名作を羅列する展示の仕方がとられたことに、大きな批判が浴びせられた。ビュールレ・コレクション財団の言い分はこうであった。第二次世界大戦後、ユダヤ人からナチスが略奪した作品を元所有者の遺族に返却するよう国から命ぜられた際、ビュールレは裁判に出頭し、高額な代金を支払って絵を遺族から合法的に買い戻した。それゆえ過去の精算は済んでおり、彼のコレクションはクリーンであると。

しかしその後、「略奪アート」の定義には、ナチスがユダヤ人から直接没収した作品だけではなく、彼らが亡命する際、渡航費、生活費を捻出するために余儀なく売却した作品も含まれるようになる。その結果、ビュールレ・コレクションの来歴を洗い直さずに展示し続けることはもはや不可能となった。2022年10月にアン・デメスターがチューリヒ美術館の新館長に就任すると、作品の来歴を調査する有識者による専門委員会が招致された。調査が進むにつれて来歴が仕分けされ、一目でセーフかアウトか分かるよう色分けしたマークがキャプションに表示されるようになった。緑 (「略奪アート」ではない)、緑-黄 (おそらく「略奪アート」ではないが、それを証明する確固たる証拠がない)、赤-黄 (おそらく「略奪アート」だろうが、それを証明する確固たる証拠がない)、赤 (完全に「略奪アート」であり、もとの所有者の子孫に返却する責務がある)。まずその色を確認し、作品に添えられた長いテキスト (あるユダヤ人家族の繁栄と没落、亡命、殺害の人生の物語、つまりコンテキスト) を読んでしまうと、観客はそちらのほうに心を奪われてしまうのではないだろうか。罪深いコンテキストを知った上で、改めて、罪のない作品をどのような目で見たらいいのだろうか。

さて、再オープンした展示室の最初の部屋は、以前は観客を迎えるための美術史のレセプション・ルームであった (近代美術の父であり、ビュールレが最も敬意を払ったセザンヌの作品の数々が飾られていた)。現在では、ユダヤ人からの略奪を象徴する作品《イレーヌ・カーン・ダンヴェールの肖像》ただ一点だけが展示されている。しかも、作品の周囲には幾重にも青い布がかかっており、歴史は一枚岩ではなく、幾つものレイヤーがあり、多層的な声を拾い上げるべきであるという美術館側の態度をその青布が象徴している (青はイレーヌの瞳の色、そして髪留めとドレスの色でもある)。

それは1880年夏、パリのユダヤ人銀行家カーン・ダンヴェールの庭で、当時8歳の娘イレーヌをルノワールが描いた作品だ。陶磁器のお人形のような白い肌と亜麻色のたゆたう髪が目を引き美少女イレーヌは、遠くを見つめている。この作品はダンヴェール家からナチスに押収され、ベルリンに保管されていたが、戦後、1946年になって74歳のイレーヌに返還された。その3年後の1949年、ナチスにも武器を販売したビュールレがオークションで落札し購入したという、いわくつきの作品である。イレーヌの娘も孫も、アウシュビッツで殺害された。だが当のイレーヌはアウシュビッツには送られず生き延びた。イタリア人伯爵との不倫関係が切っ掛けとなり、トルコ出身のユダヤ人銀行家モイゼ・ド・カモンドと離婚したことが大スキャンダルとなり、彼女はユダヤ人の上流階級から絶縁されてしまったのだ。実の娘のペアトリスのようにパリの社交界で華やかな生活を送ることなく、またイタリア人伯爵と再婚しカトリックに改宗したため、ナチスに存在を気づかれずユダヤ人狩りから逃れられた。不倫が命を救ったとは、なんという運命であろうか。



ピエール=オーギュスト・ルノワール
《イレーヌ・カーン・ダンヴェールの肖像》
1880年

ビュールレ・コレクションでは他の部屋でも、これまで声がかき消されていたユダヤ人の所有者別に作品が展示され、また作品来歴研究の最前線が紹介されている。しかし、有識者による専門委員会は、元所有者の声が十分に掬い上げられているとは言えず、やはりコレクターであり芸術の支援者であるビュールレが主人公のままである (上記のマイノリティの声を示した後

は、彼が作品をコレクションしていった順番に展示が構成されている) と猛反発し、再オープン前に全員辞職してしまった。それがさらなる炎上を呼び起こしたことは容易に想像できるだろう。現在の展示もまだプロセスの途中にあり、観客はアンケートを通して、「過去に対する罪悪感、未来に向けた和解」を基調とした展示に対しどのように感じ、考え、判断したか、自分たちの声を美術館に届けることができるようになってきている。それらの声も反映させつつ、ビュールレ・コレクション展示室は今後も変わっていく予定である。再オープンの日に言葉を交わした友人は、「ビュールレ・コレクションは何をどう見せても、うまくいくわけがない」と肩をすくめていた。だが、真実のありかを指し示すべく (あるいは逆にそれから目を逸らさせるように) 歴史を書き換えていくのは、わたしたち自身なのである。

柿沼 万里江 (パウル・クレー・センター研究員)
Zentrum Paul Klee, Monument im Fruchtländ 3, 3000 Bern



URLの詳細は、「チューリッヒ近郊お出かけ情報」
をご覧ください。

JCZ 2月イベント **Let's スケート @ ドルダ**

スイスって「スポーツ休暇」なるものがある事に驚きますよね。そこでJCZでも「スポーツイベント」=ドルダの屋外スケートリンクで、一緒に滑りませんか? 全く滑れない方も、久しぶりの方も、もっと上達するコツを知りたい方も、回ったり踊ったりしてみたい方も、みんなアドバイスをもらえるように、元ジュニアスケートインストラクターのポツィーニ留名さんを講師にお招きしています。暖かい服と手袋を忘れずにお越し下さい!



日時 : 2月9日(金) 16時集合
場所 : Adlisbergerstrasse 36 8044 Zürich
<https://www.doldersports.com/winter-front-page/kunsteisbahn/>
入場料 : 大人 : 8Fr. 16~19歳 : 6Fr. 6~15歳 : 4Fr. 貸履 : 8Fr.

2月7日までに、JCZ HP イベント申し込みフォームより、
またはメールでkikaku@japanswiss.chまでお申し込み下さい。

アフタヌーンカフェのお知らせ

1月の新年会も終わりました。スキー休暇もあって、スイスならではのウィンタースポーツの季節ですね。白銀の世界を楽しまれる方も多いでしょう。間でお時間のある方はぜひ、Jelmoliのカフェにどうぞ。

日時 : 2月8日(木) 14:00-16:00
場所 : チューリッヒJelmoli 3Fのレストラン
申込 : JCZ HP イベント申込フォームより
またはメールにて、kikaku@japanswiss.ch



スタッフ募集

会員の皆様のチューリッヒでの快適な生活をサポートするために、JCZでは一緒に運営のお手伝いをして下さる方を随時募集しています。内容はイベントの企画、IT知識のある方にはHPの管理、会計担当、会報編集、会報発送作業など、ご提供いただける時間によって様々です。どうぞお気軽にお問い合わせください。

編集 : edelweiss@japanswiss.ch
企画・他 : jcz@japanswiss.ch

**HP掲載広告
募集中!**

ご好評頂いているJCZのHPに
広告を掲載していただけます。
イベントの告知や企業の宣伝
にいかがでしょうか。詳細はHP
をご覧ください。



www.japanswiss.ch

【FESPO 旅とゴルフの見本市】
2月1~4日 10時~18時 messe-zuerich.com
Messezentrum Zürich Wallisellenstr. 49, 8050 ZH

【Art on Ice】
2月8~11日 20時~ Hallenstadion
(土曜は14時~、日曜は13時~開催あり)



【今月のお茶席】 2月11・21・25日 13時~&15時~
Museum Rietberg Gablerstr. 15, 8002 ZH
<https://rietberg.ch/tagenfeiern>



【ETH天文学展示会】
Collegium Helveticum Semper-Sternwarte
Schmelzbergstr.25, 8006 ZH

【小麦粉の出来るまで】
Mühlerama - Mühle Tiefenbrunnen Seefeldstrasse 231, 8008 ZH
<https://zuercher-museen.ch/museen/muehlerama/die-muehle>

【ガイドツアー】

*Kinderspital 《My Light》= 患者や家族に憩いとインスピレーションと喜び、幸せを、遺族にも慰めを与える、自分の光に浸れる
2月4日(日) 13時半~、14時半~ 30分の無料ガイドツアー
Pavillon 《MyLight》 Steinwiesstr.75, 8032

*FIFA ミュージアム ガイドツアー
FIFA World Football Museum Säest. 27, 8002 ZH
独語 火・日曜日、英語 土曜日 11時~12時
<https://zuercher-museen.ch/museen/fifa-museum/fuehrungen>

*Jelmoli ガイドツアー
2月28日(水) 18時~19時半 Jelmoli Seidengasse 1, 8001 ZH
集合場所 : 地階 Food Market内 《The Bakery》(予約が望ましい)
<https://www.zb.uzh.ch/events/fuehrung-im-warenhaus-jelmoli-alles-was-sie-brauchen-4>

【チューリッヒ歌劇場】 www.opernhaus.ch

アーウィン・シュロット リサイタル **今月の「聴きたい!」**
2月8日(木) 19時半~
オペレッタ《ウィンザーの陽気な女房たち》レハール作曲
2月11、14、18、20、25日、3月1、5、7、10、12、14日

【トーンハレ】 <https://tonhalle-orchester.ch>

2月2、3日19時半 パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)、クリスティナ・ゴメツ=ゴドイ(オーボエ)
モーツァルト「オーボエ協奏曲」、マーラー「交響曲第5番」

2月8、9日19時半
パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)、ヴィルデ・フランク(バイオリン)
ベートーヴェン、バルトーク、ニールセン

11月イベント感想文

寒空が続く11月、奇跡的に晴れた日に柿沼万里江さんのナビゲートでKunsthausで開催中のZeit展に参加しました。時間をテーマにした多様なアート作品が六つのテーマで紹介されています。柿沼さんの解説は質問を交えながら進み、他の参加者の方々の知識の深さにも触れることができました。

ただ見て回るだけでは理解できなかった作品も、彼女の解説を通じて深い意味を持つものになりました。素人の私には「こんなこともアートになる?」と感じる作品もありましたが、背景を知るとその人の他の作品にも興味が出てくるので不思議です。この展示は時間というテーマを通して、人生の儚さや時代の変遷、さらには社会や政治の深層にまで思考を誘います。歴史や地理への関心も新たにされた貴重な体験でした。機会があればまた参加したいです。(J.O.)



12月イベント感想文

クリスマスマーケットめぐりに参加してアドヴェントでにぎわう街にでかけました。まずはHBのクリスマスマーケットを眺めて、赤い包み紙が可愛いLINDORの下がったツリーの下で、そりに乗っての記念撮影。集まった人数は5名とこじんまりとしていましたが、まだチューリッヒにいらして間もない方もいらしたので、町の名所や、Münsterhofの小型のBöögを横目に、ゼクセロイテン広場へと向かいます。参加者にオペラハウスの歌手の竹下さんがいらしたので、オペラハウスのカフェで一休み。外に出ると日も暮れてツリーを中心としたクリスマスマーケットの明かりがとてもきれいでした。和やかな午後の楽しいひと時を過ごすことができました。(K.H.)



宮内 良太 さん

(ミュンヘン在住)

※お仕事は？

日本人スタッフ8名からなる日系の引越し会社「GlobAS Relocations」でヨーロッパに住む日本人のお客様に対して、お引越しの徹底サポートをさせて頂いております。主にスイス国内では私、自らがお客様のご自宅にお伺いして大切な家財の梱包・発送をさせて頂いております。

※ドイツにいらしてから

ミュンヘンはドイツ第三の比較的大きな都市でありながら酪農や農業も盛んな地域でもあります。地方育ちの私にとっては心地良い時間の流れをふと感じることがあります。ちなみに今住んでいる家の周りも畑ばかりで、種まきから収穫まで一年間の季節の移り変わりを窓から眺めつつ、バイエルンの田舎ライフを満喫しております。



※ドイツに来るまでのお話

東京の美術大学を卒業した後、まずイギリスに渡ったのですが、そこでブリティッシュ・アンティークの世界と出会いました。ロンドンのサカイ引越センター、アンティーク輸送部で梱包の技術と輸送の知識を学びました。その後ヨーロッパの大陸で更に物流の仕事に携われば、また何か新しい発見があるのではないかと思います。転職を決意し、



2年ほど前に同業他社である現職 (GlobAS Relocations) のミュンヘン支店に配属となりました。

※ご出身は？

静岡県伊豆、修善寺の出身です。修善寺は山と海に囲まれた地理の中心である為、地元では「伊豆のへそ」と呼ばれています。日本唯一の競輪学校/サイクルスポーツセンター、夏目漱石のゆかりの地、菊屋・あさば・新井旅館などご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが。私は修善寺の駅前で育ち、学生時代は伊豆箱根鉄道 (いずっぱこ) で三島の学校に通い、放課後に源兵衛川の畔にある美術予備校で日々デッサンをする生活を送っておりました。

※趣味、今ハマっていること

錫 (すず) の工芸品を買い集める事です。Wilhelm-Schweizer という老舗の錫製オーナメントを自宅に飾って楽しんでおります。特にクリスマスオー

ナメントで有名なのですがモミの木などに括り付けると更に愛らしい雰囲気になります。ぜひミュンヘンに遊びに来られましたらお土産に如何でしょうか？

※会員の方へのメッセージ

チューリッヒ日本人会の皆様、はじめまして。既にお気づきかと存じますが、ドイツのミュンヘンに在住でありながら本誌に登場をさせて頂きました。JCZとの出会いは1年程前、私が引越業務でスイスに訪れた際、たまたまお客様のご自宅にエーデルワイスがあったのが始まりです。ご許可を頂き、その場で一読させて頂いたのですが本誌内容の濃密さたるや衝撃を受けたのを覚えています。後日すぐに社内でも共有させて頂きまして2022年12月よりJCZ会員になる事ができました。

弊社の強みは経験豊富な日本人デスクによるフレキシブルな日程調整/通関手配と日本人スタッフによるきめ細かな梱包です。ヨーロッパ全土

でのお引越し実績多数！スイスから日本へのお引越し・スイス国内でのお引越し・スイスから諸外国へのお引越しなど、お考えでしたら是非一度弊社までお問合せください！



詳しくはこちらまでどうぞ

Email : zurich@globas-relo.com

Tell : +49(0)89-189-386-21 (日本語直通)

お時間ありましたらぜひお越しください！



編集後記

スイスの1月末とは思えない暖かい日が続いていますが、しつこいインフルエンザなども流行っているようです。皆様、お元気で過ごしましょうか。

能登の地震では孤立してしまった集落の救援や、生き埋めになってしまった方の救助をX (旧 Twitter) 等で要請したという報道を目にすると、SNS懷疑派だった私もネットワークの大切さを再認識します。

ご縁あってJCZ会員になって下さった皆様と、今年も出来る限り繋がっていききたい、という想いを込めて、EDELWEISS編集部一同、気を引き締め直して発行して参ります。今年もどうぞよろしくお祈りします。ご意見、ご感想、リクエストなどがございましたら、右に書かれている「編集部専用メールアドレス」にお送り下さい。

そしてJCZイベントやアフタヌーンカフェでも「繋がり」を深めましょう！
(SN)

広告掲載のご案内

チューリッヒ日本人会 Japan Club Zurich では、会員の方からのお知らせ・広告の掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料 (一部無料) で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

伝言板コーナーをご利用ください

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前 (会員に限る) を入れた原稿を毎月10日までに編集部にてメールにてお送りください。

●JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

JCZ 会報誌エーデルワイス 2024年2月号

発行責任者：青砥 玄(会長)

編集：中東生 阿部 牧子
ポツィーニ直美

●編集部専用メールアドレス●
edelweiss@japanswiss.ch

チューリッヒ日本人会
JCZ Japan Club Zurich
Office of Honorary Consul
General of Japan
Utoquai 55, 8008 Zürich
www.japanswiss.ch
jcz@japanswiss.ch

